

うしお

第 125 号

昭和 41 年 1 1 月

目 次

薩南海域における 41 年前半 の海況並びに漁況の概要	漁 業 部	1
大口養魚場業務概況 (10 月分)	大口養魚場	8
定置観測(10 月分)	養 殖 部	10
漁場観測速報(10 月分)	〃	11
殺藻剤オルガフィルム B のア ミミドロに対する駆除効果 について	大口養魚場 小山 鉄 雄	13
奄 美 短 信	大 島 分 場	17
業 務 概 況	編 集 部	18

鹿児島市城南町 20 番 12 号

鹿児島県水産試験場

薩南海域における41年前半の海況並びに漁況の概要

漁業部

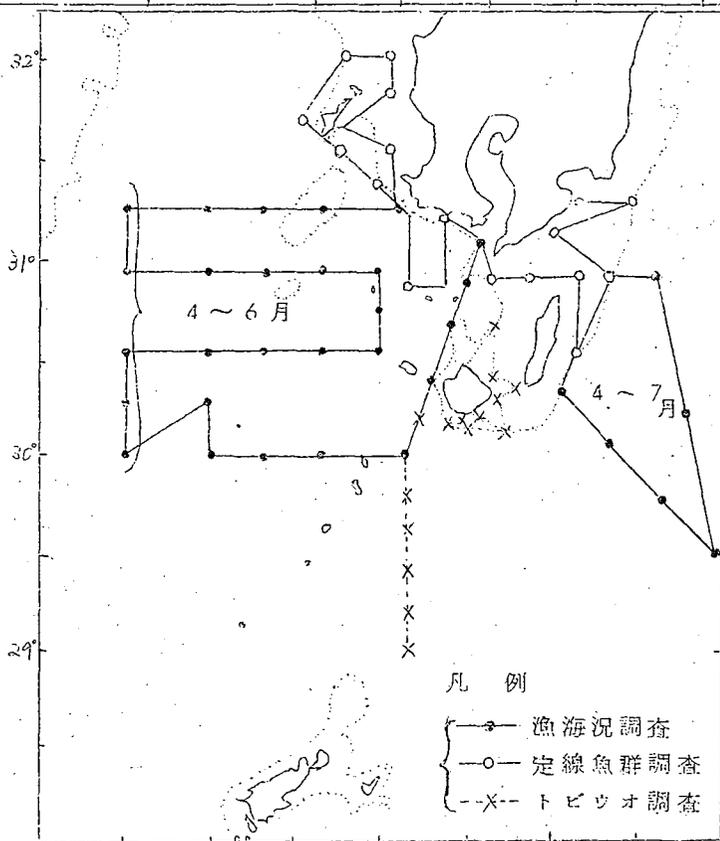
I 海洋観測実施状況

海洋観測実施状況は下表のとおりである。

定線は次図のとおりで漁海況予報事業、定線魚群調査及びトビウオ調査による。

海洋観測一覧表

期 間	漁海況予報調査		定線魚群調査		トビウオ調査		合 計 測点数	使用船
	海 域	測点数	海 域	測点数	海 域	測点数		
41. 2. 1~2. 10	西方沖合	22	沿岸域	17			39	昭南丸
3. 1~3. 10	"	"	"	"			"	"
4. 1~4. 13	西方・種子島E	33	"	"			50	"
5. 1~5. 12	"	"	"	"	屋久島近海	16	66	"
6. 1~6. 8	"	"	"	"			50	"
7. 1~7. 11	西方沖合	28	"	"			44	"
8. 2~8. 8	"	22	"	"			39	"
9. 5~9. 14	"	"	"	"			"	"



調査定線図

II 陸南海域の海況の概要

(1) 月別概況

2 月

陸南海域の表面水温は黒潮流域近くの臥蛇島から屋久島の海域では $21 \sim 22^{\circ}\text{C}$ で前月より $1 \sim 3^{\circ}\text{C}$ 上昇し屋久島北部では平年より 2°C 前後高い。沿岸域では全般的に前月より下降しており北薩～南薩海域では $15 \sim 18^{\circ}\text{C}$ で $1 \sim 2^{\circ}\text{C}$ 、大隅東部海域では $17 \sim 19^{\circ}\text{C}$ で 1°C 夫々前月より低くなつた。

又昨年同期との比較では表層、 50m 層とも宇治群島から北薩海域にかけての一部で 1°C 前後低目であつた他は高目の所が多い。

大体最低温期を過ぎたもようである。

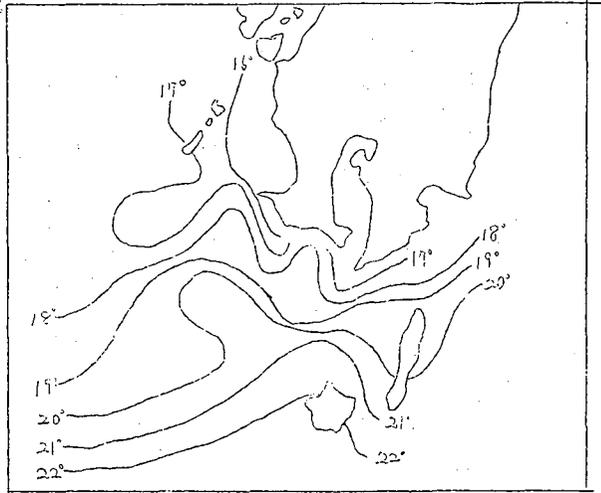


Fig 2 表面水温分布 (41年2月上旬)

3 月

黒潮勢力の影響を強く受ける臥蛇島から口ノ島では $23 \sim 24^{\circ}\text{C}$ で昨年同期より 3°C 高目となつており平年の4月上旬並の水温となつた。

しかし、沖合域の水温上昇は顕著であるが沿岸域はおそく、特に大隅半島東部沿岸では $16 \sim 17^{\circ}\text{C}$ となつている。

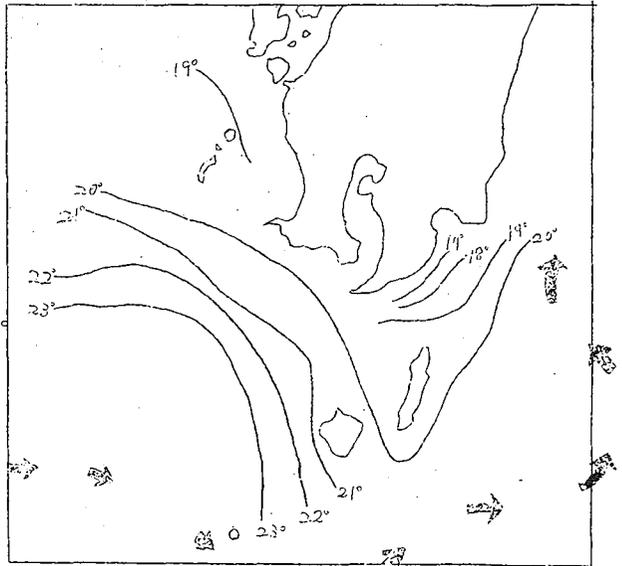


Fig 3 表面水温分布 (41年3月上旬)

4 月

黒潮流域では23℃台で3月と大差ないが大隅海峡や草垣近海では1～2℃低くなっている。

平年よりかなり低温であった40年4月に比べると各海区とも2℃前後高目である。

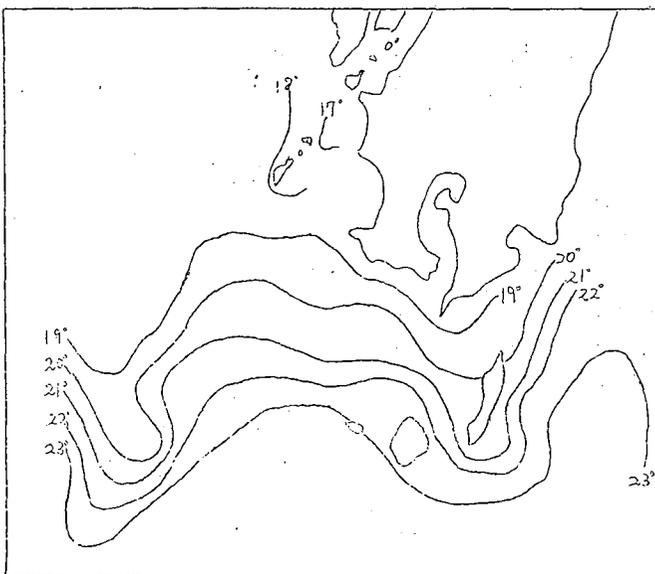


Fig 4 表面水温分布(41年4月上旬)

5 月

前月より1～2℃内外昇温し本流域近くの臥蛇島、口之島近海では24～25℃となった。

薩南、大隅の各沿岸域では19℃台、屋久島北部海域では22～23℃を示し、昨年同期に比べると大隅沿岸域で1℃内外高目の外は1℃前後低目のところが多い。

黒潮本流域近くでは平年並かやや高目、沿岸域では平年並かやや低目である。

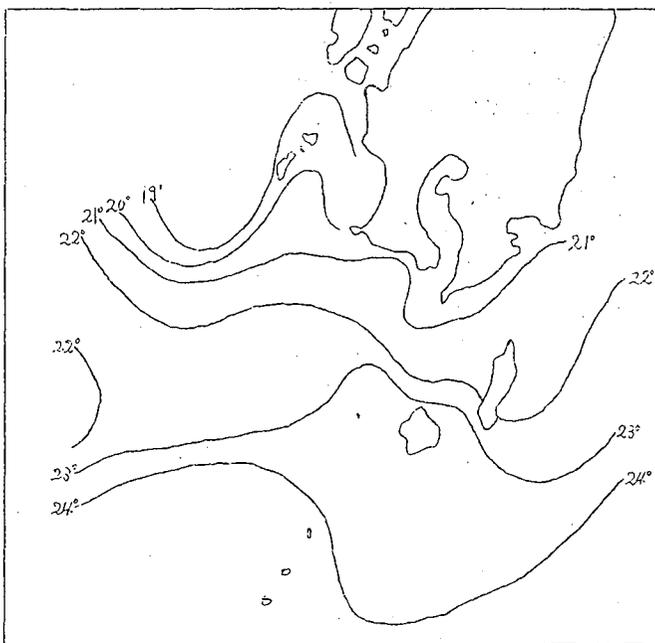


Fig 表面水温分布(41年5月上旬)

6 月

黒潮流域は前月よりやゝ北上し種子島、屋久島にやゝ接近しているようである。

薩南沿岸域、大隅海峡附近では5月中旬より1℃内外高くなっている。

屋久島北部海域や薩南沿岸域では大体平年並、甌島を中心とした北薩海域では若干低目に経過している。

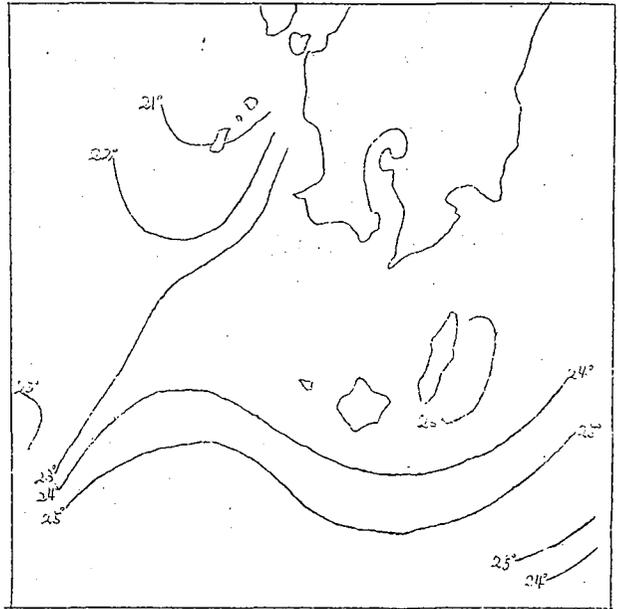


Fig 6 表面水温分布 (41年6月上旬)

7 月

全域にわたって例年より低目である。昨年同期に比べると屋久島西方で1~3℃、大隅海峡で2~3℃、甌海峡で2℃、宇治、草垣近海で2℃夫々低くなっている。

なお草垣島周辺の中、下層には発達した冷水塊が見られている。

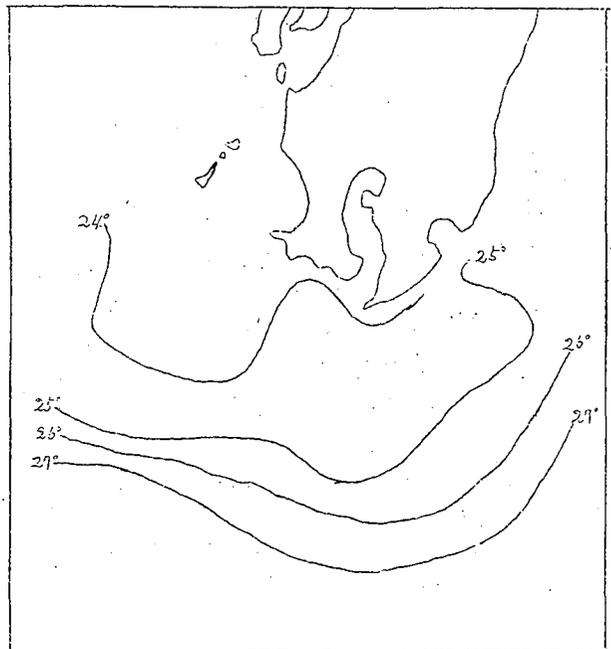


Fig 7 表面水温分布 (41年7月上旬)

8 月

梅雨明けの7月中旬に入り表面水温に急激に上昇しており8月上旬には沿岸域を除き29℃台を示し種子島東海域、黒島近海では30℃を越している。
昨年同期に比べると大隅東部～種子島東沖では3℃以上、甬～草垣方面で2℃程度高くなっており今夏の最高温を示している。

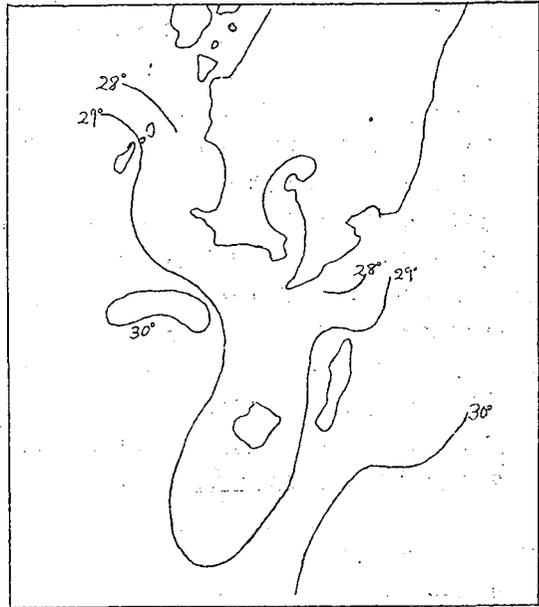


Fig 8 表面水温分布(41年8月上旬)

9 月

9月上旬に入り表面水温は沖合沿岸とも28℃台の様な水帯におかれ8月上旬に比べて1～2℃低くなった。

昨年同期に比べると沿岸域では1～2℃の高目で沖合域では昨年並である。

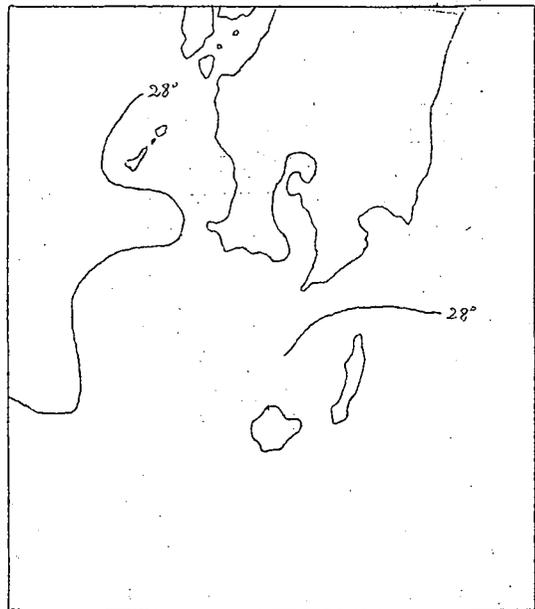


Fig 9 表面水温分布(41年9月上旬)

(2) 2～9月の海況の特徴

- ① 2月以降各海区とも一部沿岸域を除き例年よりやや高目に経過し、3月に入つて沖合域の水温上昇は顕著であるが沿岸域は遅く特に大隅東部は低目である。
 - ② 40年4月は例年よりかなり低目であつたが今年4月は各海区とも2～4℃高く(40年4月より)平年よりやや高目であつた。
 - ③ 5、6月とも黒潮流域は平年より1～2℃高目に経過しており7月は中旬に入つてから上昇が著しかつた。但し、薩摩半島南岸一帯、甬近海、大隅海峡では依然として低目である。
 - ④ 8月上旬は今夏の最高温を示し、種子島東では30℃以上の水帯に覆われ例年になく高温であつた。
 - ⑤ 以上のような経過を辿り降温期は例年に比べ若干おくれるのではないかと思われたが9月上旬には8月より低温が観測されている。(40年は9月上旬、39年は9月下旬から降温に向つている)
- 2～9月を通じて水温は沖合域で高目、沿岸域で低目であつた。

III 漁況の概要

(1) サバ一本釣

第1表 鹿兒島、阿久根港に於ける水揚状況(40、41年1～8月)

年 月	鹿 兒 島		阿 久 根		計	
	隻	屯	隻	屯	隻	屯
40年1月	1	0.4	1	0.4	2	0.8
5	47	176.2	29	84.9	76	261.1
6	143	519.0	75	263.6	218	782.6
7	149	358.0	72	210.2	221	568.2
8	38	83.6	30	50.8	68	134.4
計	378	1,137.2	207	609.9	585	1,747.1
41年1月	6	25.2	3	2.1	9	27.6
3	2	5.2			2	5.2
4	11	21.3	2	2.8	13	24.1
5	76	208.7	15	33.0	91	241.7
6	130	354.7	64	184.5	194	539.2
7	112	302.1	91	279.2	203	581.3
8	35	95.5	14	30.8	49	126.3
計	372	1,013.0	189	532.4	561	1,545.4

(2) 旋 網

昭和39～41年の1～8月に於ける漁港別水揚状況は第2表のとおりである。

41年は40年の凡そ1.3倍に達しているが1隻当り漁獲量は40年、

10.5 吨、41 年 10.9 吨と大差はない。(三港合計)

阿久根港ではマアジ、サバが 40、41 年とも主体で 41 年はカタクチイワシ、マイワシが若干増加し、ウルメイワシはやゝ減少している。

串木野港ではサバが増加しマアジが減少している。

又枕崎港ではサバが増加しマアジ、ムロアジは減少している。

宇治群島、硫黄島近海では中、小サバ主体で毎月とも漁獲の中心を占めており、阿久根方面では小アジが主体であつた。

第 2 表 旋網による漁港別魚種別水揚量(41 年 1~8 月)

単位 吨

魚港	年	隻数	マアジ	サバ	ムロアジ	ウルメイワシ	カタクチイワシ	マイワシ	他	計	
阿久根	39		14660	4010			6320	4160			
		%									
	40		978	14920	9840	610	4990	5630	640	1330	37960
		%	39.3	25.9	1.6	13.2	14.8	1.7	3.5	100	
	41		1240	15360	10896	800	3889	9434	3280	2830	46489
		%	3.30	23.4	1.7	8.4	20.3	7.1	6.1	100	
串木野	39		238	8052	7070	1552	208		662	17544	
		%	45.9	40.3	8.8	1.2			3.8	100	
	40		192	5213	4421	815	300		267	11016	
		%	47.3	40.2	7.4	2.7			2.4	100	
	41		299	4618	13550	3271	401	359	269	362	22830
		%	20.2	59.3	14.3	1.8	1.6	1.2	1.6	100	
枕崎	39		469	15834	37388	17959	1757		2791	75729	
		%	21.0	49.3	23.7	2.3			3.7	100	
	40		662	15310	54040	64826	7472		1498	143146	
		%	10.7	37.8	45.3	5.2			1.0	100	
	41		820	8420	106724	54228	7396	20	141	11371	1188300
		%	4.5	56.7	28.8	3.9	0	0	6.1	100	
計	39		38546	48468			6320	4160			
		%									
	40		1832	35443	68301	66251	12762	5630	640	3095	192122
		%	18.4	35.6	34.5	6.7	2.9	0.3	1.6	100	
	41		2359	28398	131170	58299	11686	9813	3690	14563	257619
		%	11.0	51.0	22.6	4.5	3.8	1.4	5.7	100	

(3) ヨコワ曳縄 第 3 表 枕崎港に於けるヨコワ水揚量

41 年 1 月	1.225 隻	2.41 吨	40 年 1 月	1.860 隻	4.53 吨
2 月	375	391	2 月	1.830	41.8
			3 月	1.800	121.8
			4 月	2.100	98.6
計	1.600	63.2	計	7.590	307.5

大口養魚場業務概況（10月分）

大口養魚場

1、概況

10月になり水温も下降線をたどり、冷水魚の適水温帯に入りニジマスの活動、成長ともに活発化している。

アユは飼育を終了したが、今年は稚魚の放養時期を例年より遅くし、しかも極く小型種苗（平均2g程度）であつたため成長が著しく遅れ成績は不良であつた。

アユ種苗については早期の健全なものが有利であるが、種苗が不安定であるため人工採苗の問題について早急に取り組む時期になつている。

2、飼育概要

魚種名	10月1日 推定飼育数	10月の 推定飼育数	処 分 内 訳				10月末日 飼育推定数
			販売数	死魚	供試魚	不明減耗	
稚マス	609,750		41,050	2,410	100		566,190 尾
食用及候補	9,123	180	45.9				1,046.4 kg
親マス候補	2,405						2,405 尾
親マス	412						412
稚ゴイ	227,970		20				227,950
〃	1,000						1,000
親ゴイ	188						188
アユ	160.9 ^{kg}	9	153			16.9	

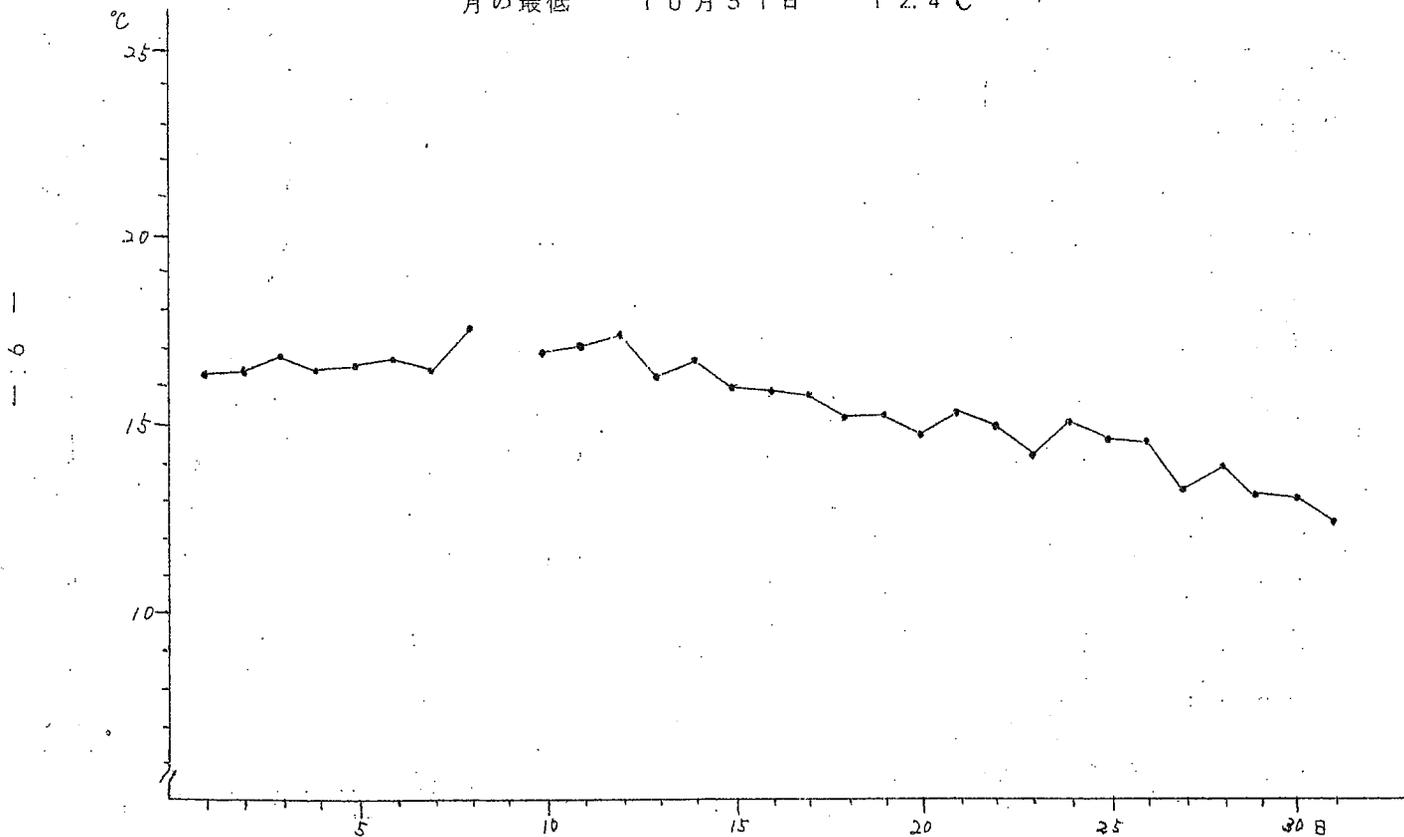
3、給餌の概要

餌料名	魚種名	孵化稚マス	食用及候補	親マス	稚ゴイ	親ゴイ	アユ
マス用 №3		525.5					
〃 №4		1,235	9.35	12	106	59	
〃 №5			949.2	87.5		18	
マス用粉末			82	82			33
小麦粉				3			7
ゴイ №3					122	24	
ビタミンmix				1.59			
ロメジンソーダ					1.2		

10月の平均水温(用水路)

月の最高 10月8日 17.5℃

月の最低 10月31日 12.4℃



定 置 観 測 (1 0 月 分)

養 殖 部

○ 旬別平均水温・比重(満潮時、表面)

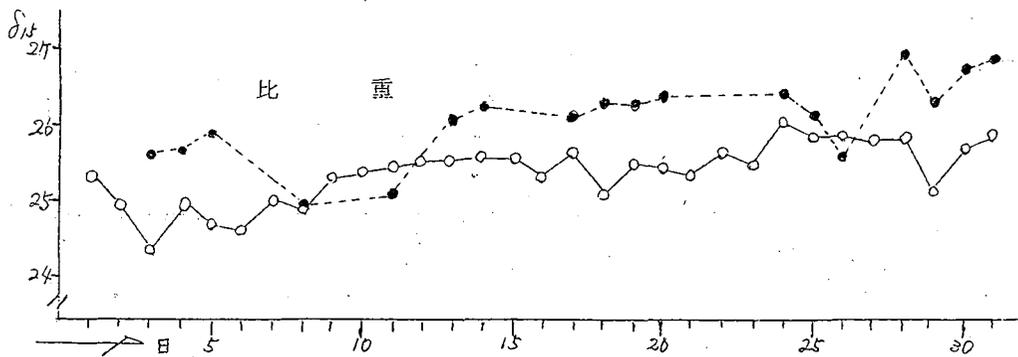
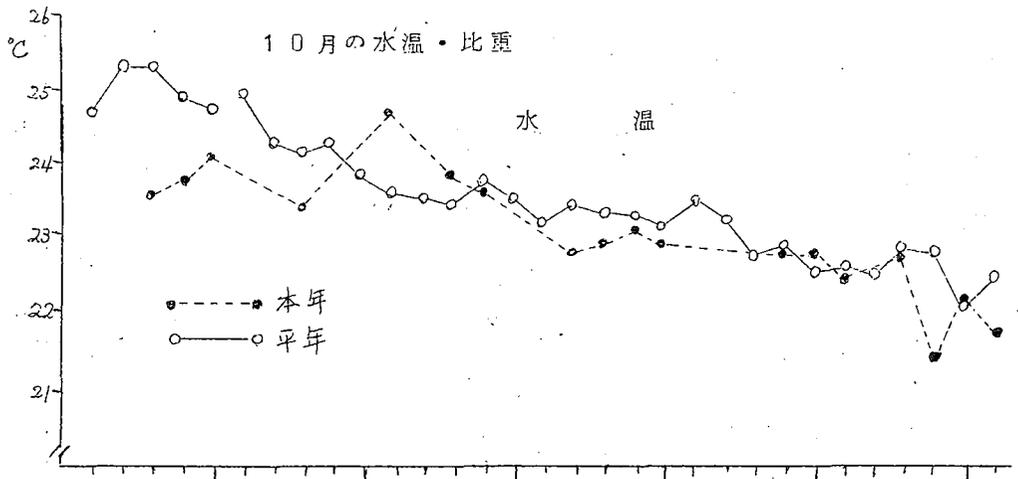
旬	水 温 °C				比 重 〃15			
	本 年	前 旬 差	前年 同期差	平 年 差	本 年	前 旬 差	前年 同期差	平 年 差
上	23.82	-1.32	+0.21	-0.90	25.56	+0.37	+0.32	+0.60
中	23.50	-0.32	+1.14	-0.13	26.10	+0.54	-0.30	+0.57
下	22.33	-1.17	+0.68	+0.14	26.51	+0.41	-0.01	+0.70
月平均	23.11	-3.42	+0.57	-0.40	26.14	+0.07	+0.09	+0.73

○ 水 温

21~25°Cの範囲で変動し、上旬にやや低めを示したが、中旬以降はほぼ
 平年並みの水温を保った。月平均水温は23.1°Cで、前月平均より3.4°C降下、
 前年同期とは0.6°C高目を示し、平年水温より0.4°C低めであった。

○ 比 重

25~27の範囲で変動し、安定した高かんが続いた。月平均比重は26.1
 で、前月より1.1高め、前年同期とは大差なく、平年値より0.7高めであった。



漁場観測速報 (10月分)

養殖部

I 旬別平均水温

旬別	里		水成川		福山	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低
上	24.60	24.00	24.71	22.37	25.15	24.95
中	24.00	22.94	24.06	22.18	24.76	24.61
下	23.10	21.85	22.75	21.63	23.60	23.42
月平均	23.89	22.93	23.80	22.01	24.47	24.30
前月差	-2.89	-2.89	-3.51	-	-2.53	-2.50
前年差	+0.65	+0.61	+0.43	-0.68	+0.48	+2.37

- 水温は各地とも前月の26~27℃台から22~24℃台に下り、その差を2~3℃以上に示して急激な下降をし始め、殊に湾奥の福山では前月から急降下をたどっている。
- 里村の10月平均水温は22.93~23.89℃を示し、前月に比して最高最低ともに3℃低くなっている。
前年同期と比較すると、約0.6℃と僅かに高くなっているが大きな差はない。
- 水成川については、前月最高最低の水温観測が出来なかつたので、前月との比較では $\frac{1}{10}$ 棒状水温計の観測値と今月の最高値とを比較した。すなわち前月から3.5℃低くなっている。前年同期と比較すると最高で0.4℃高く最低で約0.7℃低くなっている。
- 福山の平均水温は24.30~24.47℃で最高最低の温度差は他の地点に比して少ない。前月よりも2.5℃程低く、また、昨年同期に比して最高で0.5℃、最低で2.4℃程度いずれも高くなっている。
- 長崎海洋気象台10月下旬の海況旬報によると、薩南、九州近海の黒潮流域は平年よりもやや高目になりました。海況の季節変化は平年より遅れ、水温の変化は緩慢ですが、次第に回復する見込みとのことである。

II 漁況

1、里村

総漁獲量は4.650kgで、魚種別には瀬魚が3.210kgで全体の69%、イセエビが505kgで11%、キビナゴ450kgで9%、などが主なものである。なお、瀬魚の水揚げしかなかつた前月よりも約12.000kgの減獲となり、昨年同期よりも2.360kgの減獲になつている。魚種別には瀬魚が3.000kg、ヒラマサが約500kg、イセエビが190kgのいずれも減獲となつている。

旬別 魚種	上			中			下			漁獲 量計
	有日	漁数	延出漁船 漁獲量	有日	漁数	延出漁船 漁獲量	有日	漁数	延出漁船 漁獲量	
瀬魚	8	58	970	9	84	1,505	7	24	735	3,210
イセエビ				5	48	220	2	20	285	505
キビナゴ							1	1	450	450
ヒラマサ	4	6	90	2	9	50	4	7	150	290
サワラ	1	2	10				3	5	85	95
フカ							1	1	70	70
ハタ	1	5	15							15
ミズイカ							1	1	15	15
計	14	71	1,085	16	141	1,775	19	59	1,790	4,650

2、水成川

総漁獲量は7,340kgで、魚種別にはハガツオが2,933kgで全体の40%、サバが2,425kgで33%、瀬魚が787kgで10%、その他の魚が1,090kgで15%となっている。

前月に比して、総漁獲量で約3,000kg増獲しており、魚種別にはハガツオが約1,200kg、サバが約350kg、瀬魚が700kgといずれも増獲している。また、昨年同期に比べると総漁獲量で約4,200kgの増獲となっている。

旬別 魚種	上			中			下			漁獲 量計
	有日	漁数	延出漁船 漁獲量	有日	漁数	延出漁船 漁獲量	有日	漁数	延出漁船 漁獲量	
ハガツオ	3	—	49.1	9	—	1,803.6	10	—	880.1	2,932.8
サバ	7	—	1,690.2	4	—	500.5	5	—	234.2	2,424.9
瀬魚				6	—	515.1	4	—	271.8	786.9
イセエビ	1	2	12.1	5	—	53.6				65.7
キハダ				1	—	25.8				25.8
小ダイ							1		14.4	14.4
その他	7	—	350.6	9	—	367.5	11	—	371.6	1,089.7
計	18	—	2,302.0	34	—	3,266.1	31	—	1,772.1	7,340.2

殺藻剤オルガフィルムBのアミミドロ
に対する駆除効果について

大口養魚場 小山 鉄 雄

1、はしがき

養魚池特にコイ仔養成池では緑藻類のアミミドロ (Spyrogyra Hydrodictyon) が著しく繁殖し悪影響を及ぼすことが多い。これの対策としては消極的にアミミドロをすくいあげる方法が行なわれているがその効果は期待できない。

ことに養魚池で稚魚を飼育している場合は硫酸銅等の薬剤を使用することは比較的危険を伴うため突用に供することが困難であることから文献を調べた結果昭和36年茨城県霞ヶ浦北浦水産事務所では各種工場で吸着作用を利用した冷却水の藻類、バクテリア等の除去に使用されている薬剤のうち、魚類に対する毒性が比較的弱く藻類とくに緑藻類に対する毒性が強いとされている第四アンモニウム化合物の一種であるオルガフィルムBを用いて除藻効果のあつたことが報告されている。しかし、その後この薬剤の使用例を聞かないので追試験の形で効果を調べたのでその結果を簡単に報告する。

- 2、試験場所 歌産試験場大口養魚場
3、試験月日 昭和41年8月8日～12日
4、供試魚 大口養魚場産 平均体重1.5gのコイ仔
供試アミミドロは大口養魚場の池より採集。

5、試験結果

(ア) 実験室内の場合

養魚池で実際に使用する前に各種濃度による予備実験を行なった。なお、同時に硫酸銅及び食塩についても検討してみた。結果は第1、2表のとおりである。

第1表

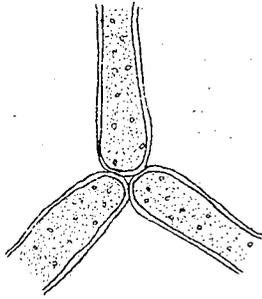
薬剤名濃度	水 温	コイ仔の状態	アミミドロの性状	備 考
オルガフィルムB 20ppm	22.5℃ ～ 27.5	6時間後に2尾死亡、24時間後 後1尾、48時間後に5尾死亡し た。死魚はヒレ特に尾ヒレが白く 収縮し、中には口も白変している。 この濃度は半数が死亡することか らかなりの影響があり実用できな い。	6時間後には細胞が縮 少しはじめ結合部分が 分離し始め、24時間 経過後はアミミドロの 形はなくなり底部に沈 下している。 水色は白濁する。	水 30ℓ コイ仔15尾 アミミドロ 30g airate を行う
オルガフィルムB 10ppm	"	2時間後1尾死亡、24時間後0、 48時間後に3尾死亡、いずれも 尾部が白変している。他のコイ仔 は全く異状なく遊んでいる。	1～3時間後に収縮分 離し始め24時間後には 完全に分離している 水色は溶解したアミミ ドロでうす白くなる。	水 30ℓ アミミドロ 30g コイ仔30尾 airateを行う

オルガフィルムB 5 ppm	22.5°C ~ 27.5°C	24~48時間経過しても死亡は認められないが1尾が少し弱っている。 72時間後も死魚はなかった。	4時間后には収縮、分離がはじまり24時間后には殆んど溶解して水色は黄色となつている。	水 30ℓ アミミドロ 30g コイ仔 30尾 airate を行う
オルガフィルムB 3 ppm	"	24時間以内に1尾死亡被害によるものか不明、他に異状はみられない。	24時間后約6割位は分離収縮しているが他は収縮のみで分離が完全でない。48時間后ほとんども分離した。	"

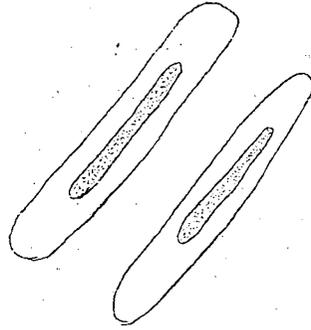
第2表

薬品名濃度	水温	コイ仔の状態	アミミドロの性状	備考
硫酸銅 100 ppm	22.5°C ~ 27.5°C	15分頃から死にはじめ1時間以内に全魚が死亡。	24時間后アミミドロの分離は認められないが、色は青色に変わり体が扁平になつている。	水 30ℓ アミミドロ 30g コイ仔 30尾 airateを行う
硫酸銅 10 ppm	"	30分頃から死にはじめ3時間後に完全に死亡。	同上	"
食塩水 0.5%	"	24時間后死魚1、他に異状は認められない。	24時間后かなりの細胞収縮がみられる。体も扁平になり白色化している。	水 5ℓ アミミドロ 5g コイ仔 5尾 airateなし
オルガフィルムD 10 ppm	"	コイ仔を入れてわずか数分で全魚がキリキリ舞いして死亡。オルガフィルムBに比較して魚毒性が強いものと考えられる。	アミミドロに対する効果はオルガフィルムBと変りない。	"

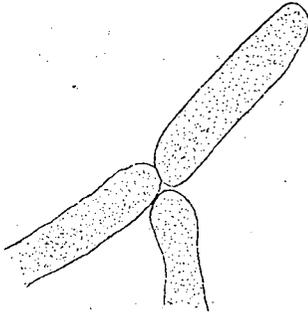
アミミドロの検鏡結果は次のとおりである。



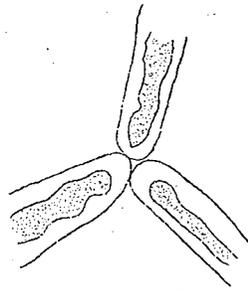
A、正常形



B、オルガファイルム 10 ppm 24 h



C、硫酸銅 10 ppm 24 h



D、食塩水 0.5% 24 h

第1図 24時間後のアミミドロの性状

対照実験 同時に実施したが期間中異常は認められなかった。

(4) 屋外池における場合

実験に使用した池はアミミドロの発生量の多い池を選んだ。結果は次のとおりである。

項 目	摘 要
1. 試験池面積	13.5 m^2 、水深40 cm 、コンクリート3面張り
2. コイ仔尾数	100尾
3. アミミドロの状態	池は産卵池で長く水を貯水していたため池一面にアミミドロが発生し、表面にも一面に浮いている状態で底部のものは若く表面のものは老化している。
4. 水 温	24~24.5 $^{\circ}C$
5. オルガフィルムBの濃度	5 ppmとした。
6. オルガフィルムBの注入法	第1回目は薬剤を希釈して池の3~4ヶ所にそのまま注入した。 第2回目は希釈して注入後池水を攪はんした。
7. 効 果	第1回目は注入法が悪かつたためかその部分のみが白色になつただけで全体的には枯濁しなかつた。 第2回目は半月位して注入後池水を攪はんしたところ24時間後には除々に分離をはじめ、48時間後には大部分が沈下して除去することができてコイ仔には何らの影響を受けなかつた。

6. 要 約

- (ア) 殺藻剤(オルガフィルムB)はアミミドロに対して著しい除藻効果のあることがわかつた。
- (イ) 実験室内でコイ仔には害を与えないで除藻効果のある濃度を検討したところ3~5 ppmの値をみた。
- (ウ) 硫酸銅及び食塩では実用化できる値が得られなかつた。
- (エ) 同系統のオルガフィルムDではコイ仔に影響があり実用できない。
- (オ) 養魚池(13.5 m^2)で実験したところ3~5 ppmで、コイ仔には影響なくアミミドロを消滅できた。但し大きな池での撒布等については今后検討してみたい。

「参考」 アミミドロに対する薬剤にはこのオルガフィルムの他に最近ケサガードと言ひ薬剤が著効を示すことが報じられている。

奄美大島の11月、残酷な程までに照り輝いた猛烈な酷暑の日にも時を刻み続けた秒が分となり、分が時間となり、時間が日となり、日が月となつて立冬が過ぎ、大島にもつるべ落しの陽が来て、その空は青く澄み空気は爽やかである。

この夏には史上最大と言われた猛烈な台風が宮古島、石垣島を襲い、数個の台風が日本本土に上陸、或いは静岡、山梨両県では集中豪雨に見舞われ、北の北海道では三年続きの低温による冷害等々、天災或いは人災による被害の大きかつた中で、こゝ大島では台風進路の中にありながら直接、台風の大きい影響を受けることなく稔りの秋を迎えたのである。このように、母のようにやさしい日本の自然に恵まれると人々の生活は穏やかで平和であるが、若し、宮古島台風のような自然の怒りに直接触れたとすればその中で同じように恐怖におののき、絶望のドン底に陥ち入つたかも知れない。自然の中に没入し、忍従することが日本の生活の仕方であると言われるが、自然と共に生活する中でその力を上手に利用しそれを改造することが必要なのではないだろうか。大島海峡は大小の多くの湾に恵まれ、台風常襲地にあつては自然の怒りに対して非常に恵まれた海域である。そこに目を付けてか、近年は大小の真珠養殖業者の進出が著しい。むろん恵まれた自然を生かし、未利用の海面を開発することは当然やらねばならないことである。しかし、開発、利用の名の下に大した計画性のないまゝ、たゞ自分だけの目先の利益のためにそれを実行し続けるとすれば、何時かは切角の恵まれた自然を破壊し、結局自然とのたゞかいに敗れるかも知れない。水産にあつても科学技術を信頼し、自然の怒り、やさしさ、もろさを素直に認める本当の勇気が必要である。そうであるなら自然をより高度に利用でき、よりよく保護することもできるであろうし、数多い漁船の遭難事故も少しは減るように思われる。

立冬が過ぎ、時折肌寒さを感ずる時にも、相変らず深紅のハイビスカスが咲き続け、穏やかな湾はコバルト色を呈し、時々雑木林からセミの鳴き声かとゞく、そんな晩秋？の時である。

(I ・カサゴ記)

§ 本 場

養 殖 部

* ノリ養殖指導

11月1日～2日 出水市漁協

11月14日 牛根漁協

(担当者 新村 茂)

* ノリ養殖試験

① 品種別比較

10月27日に野外人工採苗したもの及びその後冷凍網に処した6品種のノリについて比較試験中。

② 遮光比較

同じく10月27日に野外人工採苗した谷山産の品種で、寒冷紗(#100 #314)による遮光区と対照区の3区分について試験。

(担当者 新村 茂, 椎原 久幸)

* アワビ種苗化試験

11月7日～9日 親貝採捕運搬(甌島)

11月18日～ 人工受精、幼生飼育中

(担当者 山口 昭宣)

* ワカメ養殖指導

東町、鹿兒島市、谷山市について種系の検鏡、種系の沖出し養殖指導。

(担当者 瀬戸口 勇)

* プラクトン査定

鹿兒島湾内真珠漁場観測の一項として採集プラクトンの査定。

(担当者 瀬戸口 勇)

* フジツボ調査

11月1日、2日、15日 福山地先

11月4日、18日 竜ヶ水地先

(担当者 前田 耕作)

製 造 部

* 脱脂法に関する試験

前月実施した脱脂サバ節を更に人工カビ付することにより製品への脱脂効果とカビ着生状況調査のための試験を継続実施中である。

(担当者 藤田 薫, 是枝 登, 黒木 克宣)

* 観光土産品開発試験

指宿、霧島地区を対象とした地場資源活用の土産品開発のためコイこく、コイ、マス燻製、焼干サバを試作。

(担当者 藤田 薫, 木下耕之進, 外)

* 漁民祭関係業務

11月14日～17日までの間第3回漁民祭、水産物展示、審査、即売業務に従事した。出品点数107点、出品者62名。

(担当者 製造部全員)

* 指定工場巡回指導

北薩地区 (担当者 別府 義輝, 石神 次男)

南薩地区 (" 是枝 登, 黒木 克宣)

調査部

* 人工餌料(固型)によるハマチ養成試験

41年5月中旬から実施して来たハマチ養成試験は12月1日の定期魚体測定をもって今年度の試験は終了した。当初モジャコ10gのものが約200日後に1尾平均1,300g(最大1,850g)に成長、試験結果については資料取纏め次第報告する予定。(担当者 調査部全員)

* ハマチの健康診断

11月8, 9日の2日間にわたり垂水市牛根養魚場において多数のハマチ衰弱魚が続出しているので血液性状、こう素活性度、消化率測定による調査を実施。(担当者 上田 忠男, 弟子丸 修)

* 第2回澱粉工場廃液調査

肝付川系の澱粉工場は最盛期を迎えたので生物検定(コイ、ウナギ)並びに水質、底質調査を行なった。現在資料取纏め中。

(担当者 上田 忠男, 弟子丸 修)

漁業部

* 照南丸

10月26日 上架

11月17日～24日 漁海況海洋観測(担当者 川上 市正)

* かもめ

11月12日 かもめ分場より帰港

11月24日～ 底刺網漁業試験(担当者 岩倉 栄)

§ 大島分場

庶務係

* 10月26日 緒方主事(本場)来所。

* 11月2日 職員組合大島支部長(春田健二氏)来所。

* 11月8日 マベ協会臨時総会(於 漁協)

* 11月10日 かもめ丸鹿兒島帰港

* 11月16日 大島支庁 河野主事来所。

漁業係

ムロ魚群漁場調査及び小型まき網試験操業。

10月1日～11月12日まで大島本島全沿岸域の魚群調査及び漁場調査を実施。焼内湾入口、加計呂麻島南岸、東岸の小湊沖合に濃群を認めた。漁場調査は新漁場開発として東岸の嘉徳沖、住用湾を実施し、漁場として有望のようである。

小型旋網試験操業は加計呂麻島南岸、焼内湾入口で実施、西阿室沖合でムロの漁獲をなした。

本年度から着業した古仁屋根拠の小型旋網は11月中旬から加計呂麻島南岸で連日ムロの好漁をなし、大島沿岸域での同漁業の発展が期待される。

製造係

- * ムロ加工試験
- * ウニ液利用化試験
- * カビ付試験(11月14日開始)

養殖係

- * 餌料生物培養試験

§ 大口養魚場

- * 薩摩町営養魚場運営委員会出席
10月3日 町の依頼により出席。主に食用ゴイの販路について種々検討がなされ現況の説明等を行い助言した。(出席者 水流 実, 竹下 一正)
- * 川内市養魚講習会出席
内水面漁協と養殖組合の共催で依頼された次のことについて講習指導を行なった。(1) 技術面からみたゴイ種苗生産について
(2) 魚病の問題について (出席者 小山 鉄雄)
- * アユ価格調査
食用アユの価格変動について人吉市で調査を行なった。
(担当者 水流 実, 下野 信一)
- * ニジマス河川放流中間調査
8月3日 高尾野川のダム上流に放流したマスの中間調査を20日町の協力を得て行なった。今回は漁獲はみなかったが棲息については確認できた。
(担当者 水流 実, 小山 鉄雄, 児島 史郎)
- * 養鰻巡回研修
10月25, 26日 東大平野助教授が枕崎、山川、指宿の養鰻場の巡回研修指導に同行。(担当者 水流 実)
- * 地域振興対策事業打合せ会出席
池田湖、鰻池の地域振興について。(出席者 水流 実, 小山 鉄雄)